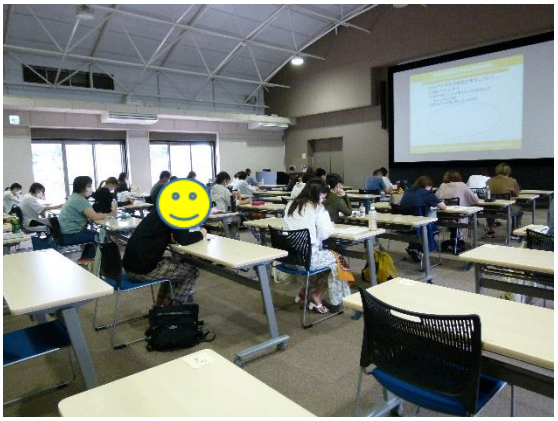
R3 年９月２日・３日(木・金)

テ　ー　マ ： JNA 収録 DVD 研修
認知症高齢者の看護実践に必要な知識
ファシリテーター ： 大石　祐司先生　　和歌山労災病院
認知症看護認定看護師
場　　所 ： 看護研修センター＋Web 参加
参　加　者 ： 46 名（うち Web 参加者６名）

ねらい： 国の施策医療の現状を理解するとともに、入院中の認知症高齢者を適切にケアするための基本的な知識を学ぶ。

認知症医療の現状と課題や認知症に関連する疾患について、看護に必要なアセスメント、援助技術などの講義 DVD を視聴した。

講義の後には演習があり、認知症高齢者ケアにあたっての療養環境の調整や意思決定支援について、事例検討や自施設の取り組みについての意見交換が行われた。



質疑応答では、身体拘束を行わないためにどのようなケアがあるのか、向精神薬の服用量についてなど、すぐに現場で活用できる質問内容であった。演習での各グループの状況をファシリテーターが全体で共有できるように説明され、有意義な研修内容であった。

R3 年９月 14 日（火）

テーマ ： 自部署で役立つ医療安全
講　師 ： 楠本　茂雅　先生　ベルランド総合病院クオリティー管理センター部長
場　所 ： 看護研修センター
参加者 ： 61 名

ねらい： 現場の環境から医療安全を考え看護実践に活用できる。
転倒転落のリスクアセスメントについて深く学ぶ。
リスクマネジメントについて学ぶ。

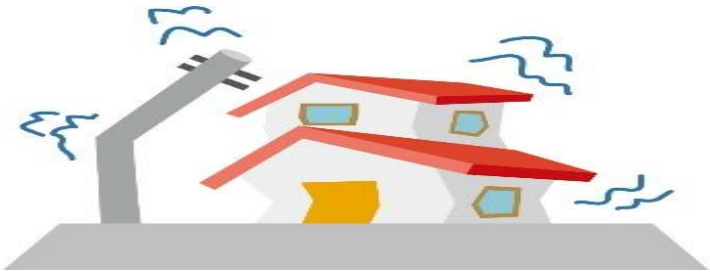
今回の研修会は、医療安全について自部署での問題点をどのように捉えて役立てるかというテーマでした。用語の解釈や事例を交えての講義の中で、ヒューマンエラーを深く理解することや人間工学とヒューマンファクター、分析と再発防止について、患者の医療安全への参加について、人やものごとを深く読みとる力を身につけていくという内容でした。相手は何を言いたかったのか、何を伝えたかったのか…ということを常に考えながら聞き方や話し方などコミュニケーションにおいて工夫をしていくことや改善していくことが大切だということ、また個々のメンバーの状況認識がチーム内で共有されれば、メンタルモデルの共有に繋がり共通の理解がチームに生まれ、チーム全体の対応力が向上するという具体的にどのように役立てていくかという視点を学ぶことができました。

R3 年９月 18 日・19 日(土・日)

テーマ ： 災害看護Ⅱ （災害支援ナース育成研修）
講　師 ： 山﨑　達枝　先生　　長岡崇徳大学准教授
場　所 ： 看護研修センター
参加者 ： 25 名

ねらい： 災害看護の特殊性を理解するとともに、専門的知識・技術を習得し、被災者および被災地域のために災害支援ナースとして活動できる実践能力を習得する。
災害支援ナースとして参加する上で自己完結型災害看護支援の心構えと行動、必要な準備について習得する。
災害発生時の看護協会の役割を知る。

2 日間にわたり講義とグループワークの研修会が行われました。講義では災害看護の基本について、災害サイクル別の災害看護活動、災害時における看護師の役割、災害関連死、こころのケアについてなど学びました。またグループワークでは「地震発生後の避難所」というテーマで間取図を使いながら実際避難所でお年寄り、乳幼児、ペットなどはどのように生活するのがよいのかなど、いくつかの課題を基に意見交換や発表をしました。このような状況で看護をどのように見出して支援していくことができるかを考える良い機会となりました。



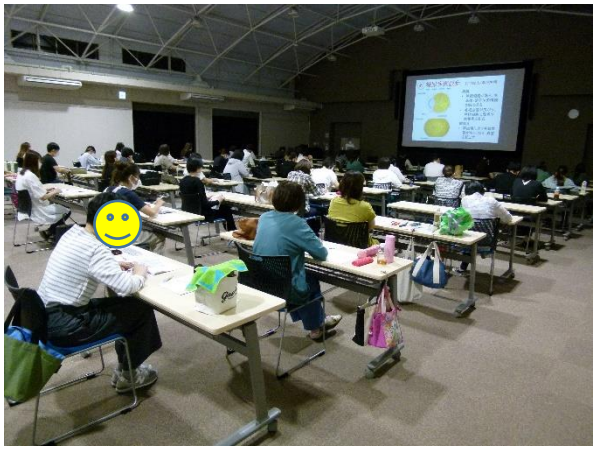
R3 年９月 21 日(火)

テーマ ： 誰もが関わる！糖尿病の理解と看護（基礎編）
講　師 ： 休場　聖子　先生　　糖尿病看護認定看護師
場　所 ： 看護研修センター
参加者 ： 46 名

ねらい： 糖尿病の基礎知識を学び、看護に活用できる。
１型・２型糖尿病の特徴や合併症について理解できる。
糖尿病患者の日常生活指導ができる。
あらゆる治療場面における糖尿病管理について理解できる。

糖尿病の病態や治療方法などの基本的な知識から最新の薬物療法、看護の実際や患者指導まで幅広く講義があった。

シックデイや術前の血糖管理、災害時の備えなど特殊な状況にある患者の看護もわかりやすく説明があった。



糖尿病患者に対しては、まず患者に寄り添うこと、患者の話を聞くことが重要という講師の言葉が印象的であった。受講者のアンケートからも、「患者に寄り添うことの重要性を考えさせられ、今後に活かしていきたい」という意見があり、学びの多い研修であった。

R3 年 9 月 25 日(土)

テーマ ： 今!!看護管理者に求められる倫理観
～組織の看護倫理を熟成させる～
講　師 ： 宮脇　美保子　先生　　慶応義塾大学　看護医療学部
教授
場　所 ： 看護研修センター
参加者 ： 57 名

ねらい：看護管理者として、倫理感のある組織文化の熟成をはかる。
看護職が専門職として身につけるべき倫理の基礎知識を基に、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定を支えるプロセスを活動に活かす。

開始時からグループワーク形式の研修となった。講義の間にグループワークを入れながらの進行で、活発に意見交換が行われていた。

医療と倫理の基本的な知識から、看護師が直面する倫理的問題、多職種との協働、患者の意思決定を支えるために重要なことなどの講義があった。

参加した受講者はほぼ主任以上の看護師であった。「これまで受けた倫理の研修より非常にわかりやすかった。」「倫理の奥深さを知った。」「管理者だけでなく中堅層やそれ以外の看護師にも参加してほしい。」など、アンケートには多くの意見があった。